

ちばセンセイの健康ワンポイントアドバイス

明けましておめでとうございます。昨年はたくさんの患者さんに来ていただきました。本当にありがとうございます。今年も地域のかかりつけ医として、皆さんの健康を守りたいと考えています。今年もよろしくお願いいたします。

さて今回も糖尿病の薬についてです。糖尿病は血液中の血糖（ブドウ糖）が増える病気だと言うことはご存じだと思いますが、血糖を下げるホルモンはインスリンしか有りません。ですからインスリン分泌を増やすことによって血糖を下げるすることができます。最近多く使われるようになったのは、DPP-4 阻害薬と GLP-1 受容体作動薬です。

血糖が高くなると、インスリン分泌を促すホルモンが作られます。その1つが GLP-1 です。DPP-4 というのは、GLP-1 を分解する酵素です。DPP-4 阻害薬は、その酵素の邪魔をするので、GLP-1 が分解されるのを防ぎ、インスリンが出やすい状態を保ちます。また血糖を上げるホルモンであるグルカゴンが作られるのを抑える働きもあるので、2つの点で高血糖にならないようにするのです。

GLP-1 受容体作動薬は DPP-4 による分解をより強力に抑える働きがあるので、単純に DPP-4 よりも効果があると考えて良いです。欠点と言ってはダメなのですが、内服薬ではなく注射剤だと言うことです。発売当時は毎日2回あるいは1回打たなければならない薬しかなかったのですが、最近1週間に1回で良い注射が開発されました。そのため、訪問看護や訪問診療の時に打てば良いだけと言うこともありますので、薬の飲み忘れなどもないので、逆に安心・安全だとも言えます。

どちらの薬も血糖に依存して働きますので、この薬だけを使う分には低血糖を起こしづらいです。

大楽毛 2-2-27 Tel64-6650
ちば内科クリニック 院長 千葉 淳